

# 入間基地CH-47体験搭乗（H27.12.13）

## 神奈川地本カレッジ防衛モニター 榎木 達志

CH-47愛称「チヌーク」。前後にローターの付いたタンDEMローターのこの輸送機は、自衛隊の保有する回転翼機としては大型で、人員では44名、物資や車輛の輸送もこなす空飛ぶバスの様な機体だ。もちろん、4年前の東日本大震災等の災害派遣でも出勤し、任務に貢献していた。今回は、このCH-47JAに搭乗させて頂いた。

マニアックな話からとなるがこのチヌーク、前後の回転翼の半径が軸間よりも長く、高速回転時の残像では羽が重なって見える。前後の羽が互いに起こす気流が干渉する時に発生する音も機体独特の音であり、音だけでチヌークだと分かるという人もいる程だ。

搭乗する際に既にローターは回転していたのだが、かなりの風圧でストラップのない帽子等は飛ばされかねない程だった。エンジン音や風音で、数メートルも離れば大声でなければ声が聞こえないほどの音と風の中、機体後部から搭乗する。中には、左右に折りたたみ式の座席があり、壁にはイヤーマフが掛けられていた。全員が搭乗を終えてイヤーマフを装着すると、タキシングを始め、滑走路からゆっくりと離陸した。

進路は東南東。パイロットの機内放送によると、高度は600メートルだったと記憶している。機体の特徴だろうか、大型車のような上下の振動はあったが、計器は一定の高度を指し示したまま、安定して飛行を続けていた。

やがてスカイツリーが見えるようになり、その後、進路を西北西へと取って基地へと帰還した。往復の時間は20分足らず。迅速に物資と人員を輸送できる優秀な足だと実感する体験搭乗だった。

# 武山駐屯地UH-1体験搭乗

## 神奈川地本カレッジ防衛モニター 榎木 達志

2月11日木曜日。天候は晴れ。前回のCH-47チヌークの体験搭乗に続き、今回もヘリコプターに体験搭乗させて頂いた。今回の機体はUH-1イロコイ。愛称「ヒューイー」とも呼ばれる機体だ。チヌーク、イロコイはネイティブアメリカンの名前が由来となっているが、ヒューイーは初期の機体名称がHU-1だったことに由来すると言われている。

全員でヘリポートへ移動し、搭乗に関しての説明を受けた。ベースは60年も前に製造された機体ではあるが、モデルチェンジと日々の整備によって、今もなお各種任務に従事している。折りたたみ椅子のような座席に、旅客機でもよく見るシートベルト、座席の下にはヘルメットが置かれていた。ブリーフィングの後、写真撮影と機体見学をし、予め決められていた順番に体験搭乗をしていく。

認識票を首から下げ、前の班と入れ替わるようにして乗り込む。座席は、操縦士・副操縦士の固定式座席を除くと前に2席、後ろに5席の計7席。コクピットが近く左右の窓も見やすいため、狭さを感じない。ふわりと離陸すると、左に旋回しながら上昇。バンクはおおよそ15度程度だが、まったくと言って良い程傾きは感じなかった。機内はエンジン音とプロペラの音で会話が難しいため、放送で到達高度が伝えられた。あっという間に高度は450mに達し、水平線や、遠くには富士山も見えた。風は強い日であったが機体はほとんど揺れず、速度は150km/h程度飛行、海岸線上空で反転して武山駐屯地へと針路をとった。10分程度のフライトではあったが、機体の性能と操縦士の技術を垣間見るには十分はフライトだった。